

福岡県内の人口移動

20 歳代を中心に福岡地域に流出・地域の均衡ある発展を！

先月は「北九州市の人口動向」を整理してみました。今回は、福岡県を4地域にわけて、福岡県内の人口移動をみてみます。

■ 福岡地域に人口集積

人口移動は国外や県外とだけではありません。福岡県内での人口移動もあります。

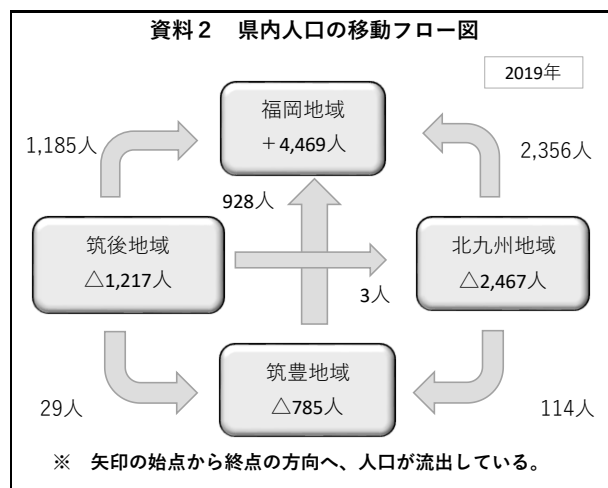
資料2のように、福岡県内では福岡地域に人口が集積し、北九州地域や筑後地域、筑豊地域から福岡地域に人口が流出しています。

北九州地域から福岡地域へ2,356人、筑後地域から福岡地域へ1,185人、筑豊地域から福岡地域へ928人、それぞれ転出超過になっています。合計で4,469人、これが県内各地域から福岡地域へ流入した人口になります。

資料1 福岡県内の4地域

福岡地域	福岡市、筑紫野市、春日市、大野城市、宗像市、太宰府市、古賀市、福津市、朝倉市、糸島市、那珂川市、粕屋郡、朝倉郡
筑後地域	大牟田市、久留米市、柳川市、八女市、筑後市、大川市、小郡市、うきは市、みやま市、三井郡、三潴郡、八女郡
筑豊地域	直方市、飯塚市、田川市、宮若市、嘉麻市、鞍手郡、嘉穂郡、田川郡
北九州地域	北九州市、行橋市、豊前市、中間市、遠賀郡、京都市、築上郡

資料2 県内人口の移動フロー図

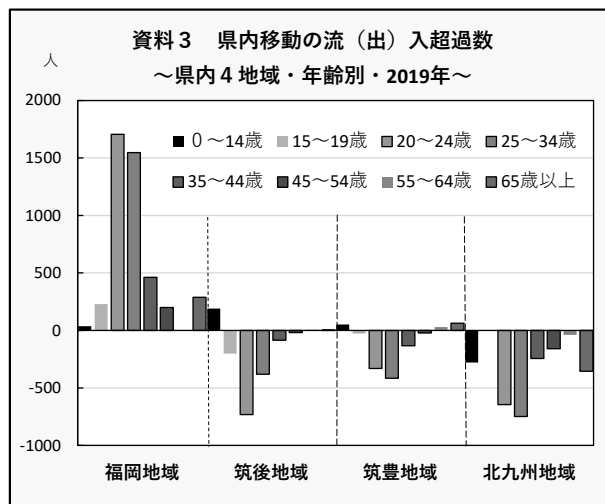


■ 移動の中心は20歳代

これを年齢階層別にみると、20～24歳が1,705人、25～29歳1,546人で、合わせると3,251人（全体の73%）になります。県内各地域から、福岡地域への転出超過が続いていますが、その中心は20歳代の若者であることがわかります。

他の3地域では、福岡地域と逆になります。北九州地域が△2,467人、筑後地域△1,217人、筑豊地域△785人と、いずれも転出超過でマイナスになっています。年齢階層別には、20歳代での流出が大きくなっています。

資料3 県内移動の流(出)入超過数 ～県内4地域・年齢別・2019年～



■ 地域の均衡ある発展を

福岡県の人口は、日本の人口が減少傾向に転じる中でも、増加しています。

しかし、それは県内で一様ではありません。福岡市を中心とする福岡地域では、人口が増加しています。一方、筑後地域、筑豊地域、北九州地域では、青年層の流出が続いています。自然動態もマイナスで、地域内人口の高齢化が進んでいます。

「国土の均衡ある発展」という言葉を聞かなくなって、久しくなります。人口の首都圏への集中から、現在では「地方消滅」という言葉が聞かれるようになりました。福岡県内の中山間地域の現状や、人口が減少している九州の各県のことを考えると、これまでの地域政策は問い直さなければならないと思います。

資料4 県内4地域における人口動態

	社会動態			自然動態
	県外	国外	県内	
福岡県	○	○	－	×
福岡地域	○	○	○	○
筑後地域	×	○	×	×
筑豊地域	×	○	×	×
北九州地域	×	○	×	×

注) ○はプラス、×はマイナスを示す。

資料5 県内4地域における人口推移

(単位：人、%)

	人口総数				生産年齢人口(15~64歳)			
	2014	2018	増減数	率	2014	2018	増減数	率
県計	5,092,513	5,111,494	18,981	0.4	3,103,621	2,987,866	△115,755	△3.7
福岡地域	2,569,111	2,645,425	76,314	3.0	1,645,879	1,633,416	△12,463	△0.8
筑後地域	816,362	799,654	△16,708	△2.0	474,192	443,061	△31,131	△6.6
筑豊地域	420,498	404,918	△15,580	△3.7	236,836	213,277	△23,559	△9.9
北九州地域	1,286,542	1,261,497	△25,045	△1.9	746,714	698,112	△48,602	△6.5

資料) 福岡県「福岡県の人口と世帯年報」 注) 各年10月1日の人口である。